北海道児童文学全集

第十三巻

監修委員　井上靖　石森延男　更科源蔵
編集委員　加藤多一　木原直彦　西田良子　和田義雄

北海道児童文学全集

第十三巻

立風書房

北海道児童文学全集　第13巻

21cm

昭和五十九年六月一日初版第一刷発行

著者代表—支部沈黙

発行者—下野博

発行所—株式会社立風書房　東京都品川区東五反田三—六—一八

電話東京四四七—一一九一　振替東京五—七四四九三

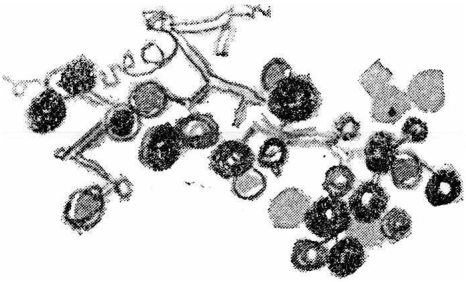
本文—信毎書籍印刷株式会社

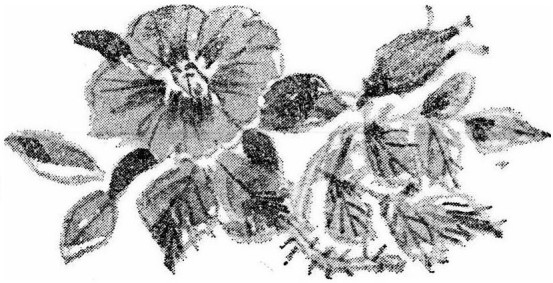
製本所—株式会社難波製本

表紙・箱・絵印刷—株式会社廣済堂

定価一八〇〇円

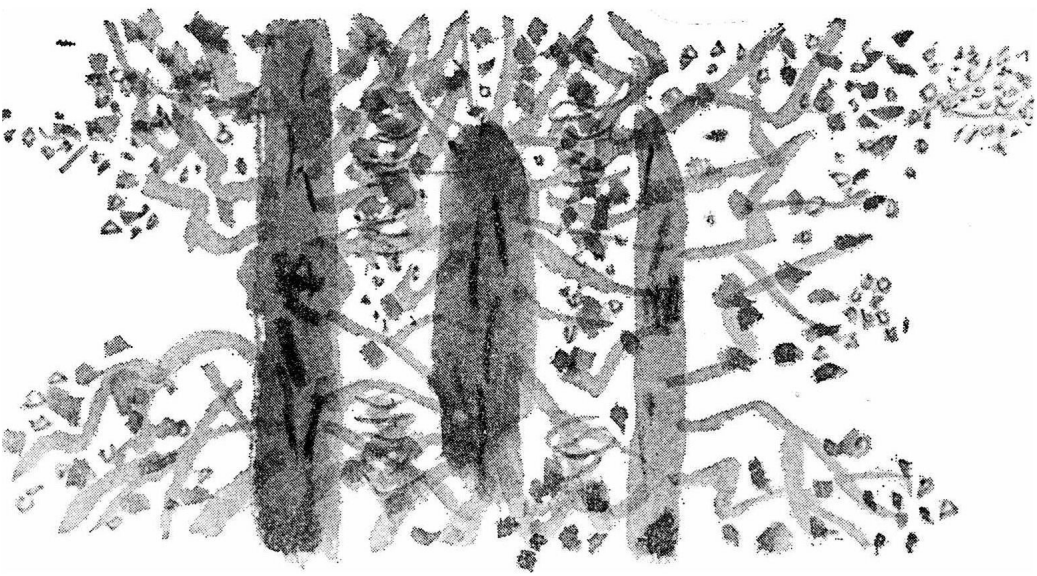
ISBN4-651-50183-4





北海道児童文学全集

第十三巻　目次



三木露風　8　賢こきのばら／赤蜻蛉

伊東音次郎　9　仔猫／かくれんぼ／とんぼ／道／こおろぎ／きつつき／はぐれ仔馬／毬つき／とうせんぼう／番小舎／浜の蟹／秋のゆうべ／かまきりとはたおり／原っぱ／トランプの絵札／吹雪／戻り船泊り船／お留守居／影ぼうし／うさぎの正月／宵闇／わたり鳥／鼓かかえて／呑ん兵衛帳／おや舟こ舟／ゆられん坊

佐野四満美　26　霜の朝／白壁お家

時雨音羽　27　旅だち／札幌にて／雪の橇道／とんびの笛

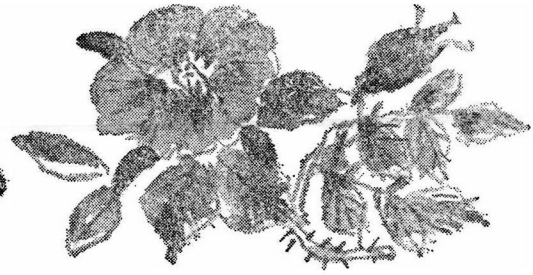
支部沈黙　30　宿借蟹／遠足／早春／山のむこう／やどかり／おんこのみ／桃太郎のおじいさん／ひっこし／はねつるべ／山の上から／豆おとし／崖／石の鳥居／蟻の行列／草の電信／ごむのてんまり／月夜のつぶて／冬の海／ぶらんこ／夜の竹やぶ／いたち／お月さん／ごむのちくび／赤猿ござる／朝顔の詩／北のお正月

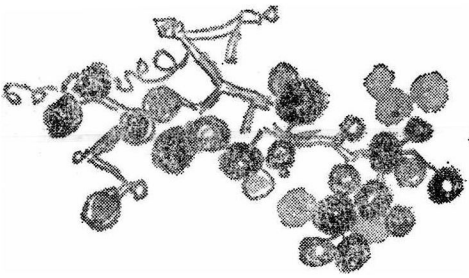
北原白秋　41　アイヌの子／この道／トラクタア／楡のかげ／サボウ／ベル／フォーク／トラピストの牛

伊藤整　48　餅をつく／雪夜

木村不二男　49　はまなす／浜べの村／夜ふけ／床屋で／谷そこの春／さむい夢／みちしお／アイヌの子／お盆／霧雨／トラピスト二題／風／月夜にあるく船／煙突ねずみ／誰もいない喫茶店／犬猫病院／霧は／砂原行／浜ゆう／浜風呂／

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com





猪狩満直　64　オホーツク海／夢／角笛／チェホフ小父さん／父を待つ／秋の夜は

更科源蔵　66　吹雪の夜の会話／鴉・俺・子供・犬／チャチャはこう話して呉れた／古潭記録／小さな足跡／コタンの学校　I／雲／アイヌ子守唄

片平庸人　70　山背泊／河洲／青いツララ

川崎大治　72　おいらの腕

岸　正夫　73　一月の雨

秋谷静香　74　きりぎりす

八森虎太郎　76　ねぎぼうず／白樺の林／北海道地図／民俗採集

玉川雄介　80　アイヌの子と舟／矢の根石／ぼたん雪／寒帯の魚／ずり山　はげ山　白い山／春をよべよべ

小熊秀雄　85　トンボは北へ、私は南へ／小松の新芽

宮川悦郎　88　夜霧／浜なす／専念寺／村ざかいの橋

海老名礼太　91　お母さん／とんぼとり兵隊／タンポポ　ノ　ヘイタイ

坪松一郎　93　猫なげ／夜霧／月夜／いろりばたのお話／夕陽時の平原／子供とトンボ／のこりおひさん／トリ小屋と馬小屋／夕飯時／いろりばた／夜仕事／原野／川ぶち／日暮／夜仕事／狐火／苺と牛乳／仔っ子の牛／牧場の仔馬／お月さん／仔猫／行水／ネギ坊主／雪どけ／馬小屋／犬よ／日暮／月夜の渡り鳥／奉公／日高海岸／春の海辺／ねむの木／ひそひそ話／西行様／馬屋

奥　保　111　の馬／戦地の父ちゃんに／木炭焼小屋で／秋陽の中で／夜更のいろり／年越し／田圃道／月夜／あんちゃん／牧場の便り／北海の海鳴り

渡辺直吉　114　寝んね／かんこ鳥

高橋　勇　115　思出

小田邦雄　116　あまだれさん／大雪　こゆき／ひそやかな秋

百田宗治　118　北海道へ馬鈴薯つくりに／楡の町／とうきびの歌／雪の中の春

松田善雄　125　乳しぼりの歌

巽　聖歌　127　韃靼の海

大塚みつる　128　月夜の帰農地／狩勝峠／アカシヤ咲く街

加藤愛夫　130　オトモダチ／父の農場／山番の家

荒谷七生　134　向日葵

北畠八穂　135　北のこどもは知っている

草野心平　136　ゆき

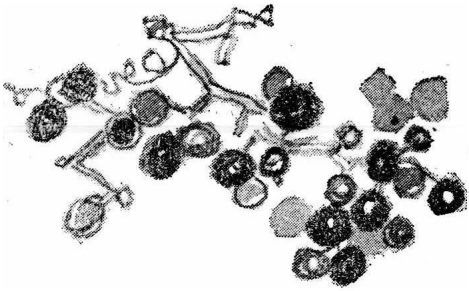
尾崎喜八　137　ベニマシコ

浅野　晃　138　音楽

北園克衛　139　冬が来る

竹内てるよ　140　雪物語

並木凡平　142　張碓の浜



工　清定　143　はるけき旅の日

赤井喜一　146　駅で／足あとさがしに

渡辺ひろし　148　鳩の扇子／米屋／驢馬が来ました／水田の空／月とお馬／秋／仔熊／雪虫の声／雪の北一条通り／初冬／ラッセル電車／にじ　の　つらら／てろんとろっぷ／ろばよ　走れ／初雪／シシャモ／バスで　見た　知里先生

神沢利子　164　セーターを　かぶるとき／つららの　チャイム／小さな　おばさん／そり／塩じゃけのうた／たんぽぽさん／銀河

石森延男　168　にれの　林

小池栄寿　169　ノシャップ岬にて

佐々木逸郎　170　白鳥のうた／雪の子風の子／湖のほとりの村

枯木虎夫　172　サロマ湖畔の詩

富樫酋壱郎　174　寄りコンブ

今井鴻象　175　海豹のうた／つららのふえ／おやぐま　こぐま／あおい　かや／白鳥の詩

山田伍市　181　ボクと妻／開拓地の空／ヤブカンゾウ

小場てるあき　183　小さな学校の小さな仲間／かあさん

伊藤たいめい　186　なぜなの　ねえーどうして　(1)／なぜなの　ねえーどうして　(2)

江部かずみ　187　夏（1）

水木俊子　188　神さまの話

松岡繁雄　188　村の校舎

尾崎道子 189 木馬

朝日亮雄 189 かたつむり

入江好之 190 花のなかをゆく／花束／開墾地で／開墾地の春／おそい春／春がくると／雪ばれの日／こぶしの花が散ると／原始林で／もえるにれの木／ポプラ並木／平原で／鳥かげ／馬のいない牧場／草原の夕暮から夜へ／もえる雪像／流氷の海／爪のない鳩に／シベリア物語

三宅知子 208 おやすみ／かぜのドライブ／月のかお／夜／すずめのさえずり？／かぼちゃ／じゃがいも／せんたくばさみ／きたかぜ／なふだ／ははの日／うみ

大久保テイ子 215 コロポックル／カブとゴボウ／ひとし／ふるよ／いっぽん道／またあした／海鳴り／ユーカラ／しおさいの歌／秋／初冬／敗戦近く Ⅰ／敗戦近く Ⅱ／敗戦近く Ⅲ／敗戦 Ⅱ／おもいで

五十嵐逸子 225 あいさつ／早春／しばれる夜／うさぎに／ぼくの小学校／いもつぶ歌った

湯田克衛 230 海のメルヘン 2

福沢千比呂 231 ゴックンさま

友田多喜雄 233 雪のうた／むかし アイヌのひとたちは／こうしが ぼくの／ぎゅうにゅう のむ／こうまと おんなじ／森の方から／ペンチ／柵／古い蹄鉄／インク壺／蝶番／オハジキ／パイロットファーム／星の仔馬／少年と仔馬／大通り公園の仔馬／夜の仔馬／大脳の牧場で

解説（かいせつ） 243 加藤多一（かとうたいち）

詩と童謡（どうよう）

三木露風

賢こきのばら

一

のばら
のばら
蝦夷地ののばら
人こそしらね
あふれさく
いろもうるわし
野のうばら

二

のばら
のばら
賢こきのばら
神の聖旨を
あやまたぬ
曠野の花に
知る教。

（「蘆間の幻影」新潮社　大9・11）

赤蜻蛉

夕焼、小焼の
あかとんぼ
負われて見たのは
いつの日か。

山の畑の
桑の実を
小籠に摘んだは
まぼろしか。

十五で姐やは
嫁に行き

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

お里のたよりも
絶えはてた。

夕やけ小やけの
赤とんぼ
とまっているよ
竿の先。

（「樫の実」大10・8）

伊東音次郎

仔猫

今年生れた
五匹の仔猫
今日は晴れの日
お輿入れ。

赤い頸輪に
小鈴を下げて
はなればなれに
お輿入れ。

ほんにきれいな
嫁御だけれど
泣きの涙で

お輿入れ。

（「小学少女」大13・5）

かくれんぼ

雨のふる日のかくれんぼ。
二人ひっそりかくれんぼ。
鳥屋にかくれて、かくれんぼ。

鬼はおかしや、雨の中、
ぐっしょりぬれてきょときょとと。
朴の下からきょときょとと。

雨のふる日のかくれんぼ。
鳥屋にかくれて、かくれんぼ。
雨のやむまでかくれんぼ。

（「小学少年」大12・11）

とんぼ

とんぼ、とんぼ、
どの指にとまる？

大きな目玉を
ぐるぐるまわし、

よくよく思案を
してとまれ。

（「小学少年」大13・7）

道

夏の日なかの野の中に
まっ直な道がただ一つ。

夏の日なかの野の道に

青い客馬車がただ一つ。
夏の日なかの客馬車に
しろい日傘がただ一つ。
夏の日なかの道ばたに
昼顔の花がただ一つ。

（「青陽」大13・7）

こおろぎ

こおろぎ、ころころ
だいどころ、
板場でねんねか
宿なしか。

こおろぎ、ころころ
だいどころ、
戸棚でお泣きか
ひもじいか。

（「小学少女」大13・10）

きつつき

木つつき、こつこつ
大工さん
穴がほれたら
たばこにしょ。

木つつき、こつこつ
大工さん
三時だ、おやつだ
茶がわいた。

（「小学少年」大13・12）

はぐれ仔馬

迷子の、迷子の、

仔馬さん、

道草たべて、
いるひまに

親にはぐれて、
迷い子さん。

迷子の、迷子の
仔馬さん、

母様お馬は
えんやらさ、

荷馬車をひいて
坂の上。

（「五六年の小学生」大14・3）

毬つき

一人毬つきゃ
せんもなや。

春の日永に
せんもなや。

縁の日向に
せんもなや。

つく手やめれば
せんもなや。

（「小学少女」大14・3）

とうせんぼう

とーせんぼう

とーせんぼう

此戸は関所だ
御役所だ
木戸がしまった
日が暮れた。

とーせんぼう、
とーせんぼう。

夜は入れない
旅の人、
明日の朝来て
願わんせ。

（「小学少年」大14・5）

番小舎

水田の中の
番小舎の
五助爺は
腹立てた。

「蛙奴鳴いて
眠られぬ
石でもほって
やろうかい。」

「蛍奴光って
眠られぬ
水でもかけて
やろうかい。」

（「小学少年」大14・5）

浜の蟹

浪が忘れた
はぐれ蟹。

右にはうても
浜つづき。

どこが自家やら
海だやら。

磯の砂地の
迷い蟹。

左にはうても
砂の上。

どちらが海やら
音ばかり。

（「少学少年」大14・8）

秋のゆうべ

鳩が帰れば
日がくれる
ふもとの坂の
豆畑。

西が焼ければ
暗うなる
谷の間の
杉林。

峯の御堂に
灯がついて
夜になったと
鐘がなる。

（「小学少年」大14・10）

かまきりとはたおり

秋のまま児の

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com